

古河駐屯地創立68周年 第1施設団創隊61周年 記念行事

施設団は六月五日（日）古河駐屯地において古河駐屯地創立六十周年及び第一施設団創隊六十一周年記念行事を挙行政した。

例年は、駐屯地を一般開放し、平素からの第一施設団及び古河駐屯地に対するご理解・ご支援に感謝の意を表すところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から招待者を限定して実施した。今年度は動画配信のため、東部方面システム通信群写真真班の協力を得て映像を撮影し、SNSを活用した情報発信を実施した。

駐屯地司令は、式典において「日本が未曾有の困難に直面している時こそ、我々隊員一同は諸先輩方が築き上げて来られた良き伝統と地域の皆様との強い絆を礎として『地域と共に光り輝く未来』を進んでいけるよう地域と国民の皆様の負託に応えることのできる強靱な部隊の創造を目指し、更なる精進を積み重ねていく所存である（要旨）」と式辞を述べた。

引き続き、関係自治体等に対し平素からのご理解・ご協力に敬意を表し、古河・霞ヶ浦分区分の市町旗を紹介した。

また、観閲行進では古河駐屯地所在部隊の他、第一施設団隷下部隊による一糸乱れぬ車両行進を行い、訓練展示では駐屯地各部隊の機能として、第一〇一施設器材隊の橋梁架設、第三三七高射中隊による〇三式中距離地对空誘導弾の射撃準備及び隊員による格闘展示等を披露した。



式辞



巡閲



観閲行進



参列部隊



「輝く未来へ」

東部方面総監初度視察を受察

第一施設団及び古河駐屯地業務隊は六月三十日、森下東部方面総監の初度視察を受察した。古河駐屯地に到着した総監は、体育館において儀仗よう隊から栄誉礼を受けた後、施設団作戦室において団長及び業務隊長から状況報告を受けた。

隊内巡視においては、部隊の勤務庁舎及び管理する施設等の勤務環境を、生活隊舎では隊員の生活等、駐屯地の作戦基盤の充実への取り組みを視察した。

最後に駐屯地営庭において訓示した総監は第一施設団に対し「仲西団長統率のもと、全員が団の地位・役割を深く認識し、また、令和四年度の特性を踏まえつつ即応態勢の充実・作戦遂行能力の向上・作戦基盤の充実を図り一致団結して任務遂行・隊務運営に邁進することを期待する（要旨）」と述べ古河駐屯地を後にした。



儀仗よう隊を巡閲する総監



隊内巡視（勤務隊舎）



状況報告



記念撮影



総監訓示



隊内巡視（補給品倉庫）



隊内巡視（生活隊舎）

修親会活動

古河駐屯地修親会は、定期的に駐屯地周辺の清掃活動を実施し地域の皆様との繋がりを大切にするともに環境美化の維持に努めている。引き続き清掃活動を積極的に続けていく。



駐屯地修親会による
清掃活動の様子

曹友会活動

令和四年六月十二日（火）古河駐屯地曹友会は、日本赤十字社に対して献血支援を実施した。三十九名の隊員が献血協力を行い医療機関へ貢献した。今後も、古河駐屯地曹友会は献血活動へ積極的に協力していく。



献血協力の様子



花壇コンクール

令和四年度
第一回花壇コンクールの
優勝は、
第一〇一施設器材架橋中隊

花壇の名前は
「渡花訓練」



優勝
第101施設器材隊 架橋中隊

新着任部隊長紹介

《第一〇一施設器材隊長》



中村2佐は
市ヶ谷駐屯地から

《第三四一会計隊長》



中島1尉は
朝霞駐屯地から

定年退官者の紹介



団付 梨本准尉
4月7日付



支処 坂尾准尉
5月18日付



団付 大園准尉
4月24日付



団付 小川准尉
6月16日付



支処 荒川事務官
3月31日付



支処 角田技官
3月31日付

異動者

永年の勤務、お疲れさまでした。

【転出者】

第一施設団本部
三等陸佐 京極 康弘 (岐阜)
三等陸佐 本橋 達弘 (小田)
一等陸尉 川口 真司 (小田)
一等陸尉 大嶽 竜司 (座間)

第一施設団本部付隊

陸曹長 福田 泰裕 (座間)
一等陸曹 柿原 史子 (朝霞)
二等陸曹 古田 士長夫 (海田市)
二等陸曹 満木 奈緒子 (埼玉)

第一〇一施設器材隊

二等陸佐 辻本 和久 (勝田)
三等陸佐 酒谷 和宏 (南恵庭)
三等陸曹 武田 翔太郎 (上富良野)
第三〇一ダンブ車両中隊
二等陸曹 原島 宏彰 (那覇)
三等陸曹 原島 芽以 (那覇)

関東補給処古河支処

三等陸佐 瓜生 正行 (霞ヶ浦)
三等陸佐 山下 新一 (目黒)
三等陸尉 阿部 康洋 (土浦)
二等陸尉 久保 智太 (釧路)
二等陸曹 鹿島 龍一 (朝霞)

古河駐屯地業務隊

陸曹長 辻 典孝 (三宿)
第一〇二施設直接支援大隊
一等陸尉 西岡 和洋 (北熊本)
二等陸尉 川崎 登 (宇都宮)

第三三七高射中隊

二等陸尉 飯島 勇太 (松戸)
二等陸曹 菅原 大玄 (島松)
三等陸曹 細井 将平 (松戸)
三等陸曹 仲間 智明 (相馬原)

第三四一会計隊

三等陸佐 真見 伸也 (朝霞)
二等陸尉 木戸 定人 (松本)
第三〇基地通信中隊古河派遣隊
二等陸曹 鈴木 晴美 (霞ヶ浦)

第二七地区警務隊古河派遣隊

二等陸曹 内田 清晴 (習志野)
東部情報保全隊古河情報保全派遣隊
二等陸曹 袖川 卓人 (松戸)

関東補給処古河支処

行(一) 6 三友 邦明 (霞ヶ浦)
行(一) 6 板谷 貴晴 (京都)
行(一) 5 吉田 克己 (横浜)
行(一) 4 高橋 盛一 (前橋)
行(一) 3 鳥居 俊克 (霞ヶ浦)
行(一) 2 内田 唯菜 (長崎)

古河駐屯地業務隊

行(一) 4 平 浩子 (用賀)
行(一) 3 野口 勝弘 (朝霞)
行(一) 2 大澤 朗 (木更津)
行(一) 2 平川 有希乃 (朝霞)

【転入者】

第一施設団本部
三等陸佐 加藤 到 (八戸)
一等陸尉 大友 康行 (高田)
一等陸尉 金田 治樹 (高田)

第一施設団本部付隊

一等陸曹 木村 順一 (埼玉)
一等陸曹 菊地 正夫 (新町)
二等陸曹 阿左見 治 (那覇)
二等陸曹 菅谷 利憲 (高田)
三等陸曹 熊倉 拓海 (武山)

第一〇一施設器材隊

二等陸佐 中村 晋太郎 (市ヶ谷)
一等陸尉 古賀 大智 (防衛大)
二等陸曹 芝沼 明 (埼玉)
二等陸曹 谷島 誠 (徳島)
三等陸曹 関 彩加 (大久保)

第三〇一ダンブ車両中隊

二等陸曹 保谷 智治 (勝田)

関東補給処古河支処

二等陸佐 大中 一剛 (宇都宮)
三等陸佐 田村 芳達 (朝霞)
二等陸尉 白濱 雄介 (北宇都宮)
一等陸曹 湯本 和博 (十条)

古河駐屯地業務隊

二等陸曹 加藤 和幸 (釧路)
二等陸曹 根本 慎太郎 (朝霞)
二等陸曹 飯田 真吾 (仙台)

第一〇二施設直接支援大隊

一等陸尉 安斎 正大 (朝霞)
二等陸尉 萱島 成基 (富士)
二等陸尉 古賀 肇 (目達原)

第三三七高射中隊

一等陸曹 高野 信之 (千葉)
二等陸曹 海老沢 忍 (帯広)
二等陸曹 前田 洋平 (青野原)

第三四一会計隊

一等陸尉 中島 一護 (朝霞)
二等陸尉 川越 康寛 (滝ヶ原)
二等陸尉 小林 正典 (木更津)

第二七地区警務隊古河連絡班

二等陸曹 王藤 衛 (神町)
東部情報保全隊古河情報保全派遣隊
一等陸曹 松井 威 (勝田)

関東補給処古河支処

行(一) 6 吉村 重信 (岐阜)
行(一) 5 土田 英人 (市ヶ谷)
行(一) 5 森口 敦史 (岩手)
行(一) 4 山口 拓朗 (市ヶ谷)
行(一) 4 五十嵐 大 (福島)

古河駐屯地業務隊

行(一) 3 奥宮 正剛 (富士)
行(一) 3 阿久澤 彦彰 (宇都宮)
行(一) 3 梶野 友晴 (十条)
行(一) 1 友光 成美 (那覇)
行(一) 1 伊藤 蒼竜 (市ヶ谷)

古河駐屯地業務隊

行(一) 5 出羽 洋司 (市ヶ谷)
行(一) 3 蒔苗 和敏 (高田)
行(一) 3 佐野 福太郎 (北富士)
行(一) 2 金井 利久 (勝田)
行(一) 2 古川 和樹 (武山)

古河駐屯地業務隊

行(一) 3 鮎ヶ瀬 茂明 (宇都宮)

各部隊等の活動紹介

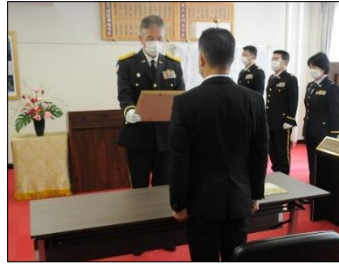


記念撮影



服務の宣誓

四月一日（水）、防衛省新規採用事務官（男性一名、女性二名）の入省式を実施した。入省式では、終始緊張気味の様子ではあったが、両部長、先任上級曹長の立会の下、支処長に対し、一人ひとりが服務の宣誓をし、支処長からの訓示を受け、防衛省事務官としての決意を新たにしました。三名の今後の活躍を期待する。



感謝状を受賞する浦氏



記念撮影

関東補給処古河支処は、二月十九日（土）、令和三年感謝状贈呈式を実施した。今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため例年とは異なり、創立記念行事を中止し、感謝状贈呈式のみを実施した。今年、株式会社IHイエアロスペース及び永和株式会社との二社と、古河補給処OB会員の浦浩和氏に感謝状を贈呈したが、二社には郵送により、浦氏には感謝状贈呈式に参加いただき、支処長から日頃の支処に対する貢献を貴び、古河支処で制作した記念の盾を添えて、感謝の意を表した。



油脂類屋内貯蔵庫新設工事



OB会との連携強化



格闘検定



救急法検定

古河駐屯地業務隊は、二月三日（木）古河駐屯地業務隊OB会長以下二名の表敬を受け、東京五輪大会支援等特色ある令和三年度の業務隊活動状況及び令和四年度の主要予定等の情報を共有するとともにOB会（刀水会）との連携強化を図った。そのほか、第三回小火器射撃検定、第二回救急法検定、格闘検定と各種検定を実施し、所属隊員に所要の練度があることを確認した。引き続き、次年度も実施率及び合格率100%を追求し、計画・練成する。また、四月四日（月）中堅陸曹識能試験兼ねて第一〇四期一般幹部候補生試験（部内）、五日（火）第七十二期三尉候補者試験を管理し適正に実施するとともに、4四半期駐屯地施設の整備として、油脂類屋内貯蔵庫新設工事、駐屯地外柵フェンス整備工事等計二十七件の整備を実施し、勤務・生活環境の不断の改善を図った。令和四年度も隊員の生活・勤務環境向上に向け、全力で取り組んでいく。



負傷した隊員への救急処置



統裁官へ報告を実施する第1直接支援中隊長



有毒化学剤の除染



12.7mm重機関銃対空射撃

令和四年二月十五日（火）～二月十七日（木）までの間、勝田小演習場において、第一直接支援中隊（座間）に対し、施設群の野整備支援に任ずる直接支援中隊の行動に対し訓練検閲を実施し、その練度を評価・判定して、今後の進歩・向上を促した。



ディーゼルエンジン整備要領実習



成績優秀者の表彰

第一〇二施設直接支援大隊は、古河駐屯地において令和四年一月六日（木）～三月十日（木）までの間、整備隊長を担任官とし令和三年度陸士特技課程「施設機械整備」を実施した。本教育は施設機械整備手として必要な基礎的知識や各種施設器材の構造機能及び整備要領等について教育を実施した。教育に参加した学生十八名は座学及び実習に熱心に取り組む、特技に関する知識と技術を修得した。

各部隊等の活動紹介

第一〇一施設器材隊は、令和四年三月二十二日（火）雪の果て春焦がれるなか、第一〇一施設器材隊長に中村 晋太郎二佐（市ヶ谷・統幕）が着任した。指揮をするに当たり「ニーズを我が事のように考える施設力の発揮」を統率方針とし「前向きに 一歩前進」を要望事項に示された。着任式終了後、器材隊の概要及び現況等について状況報告を受けるとともに、各施設を巡視し器材隊の状況を把握した。



着任隊長 中村 2 佐



施設巡視



施工前



施工完了

特殊器材中隊は令和三年十二月十五日から令和四年三月三十一日までの間、古河駐屯地油脂庫庫内貯蔵庫建替工事の基礎工事を実施した。約三か月の作業により鉄筋コンクリート造一階建て約百五十㎡の基礎部分を完成させた。令和四年八月以降、三か月計画で躯体工事を予定している。

第三〇一ダンプ車両中隊は、令和四年四月十一日から四月二十一日までの間、東富士演習場において実施された、令和四年度方面隊春季演習場定期整備に中隊長以下四十二名が参加し、探検場の開設・運営及び各部隊が担任する機動路整備等を支援し、演習場機能の維持・向上及び演習場の長期安定使用に寄与するとともに、一件の事故もなく任務を完遂した。特に、中隊として初の探検場の開設・運営任務を付与され、探検場内の各種骨材の管理、各作業部隊の要望に応じた各種骨材を、期間中約四〇〇〇㎡を払い出し、また、機動路整備等支援において約三〇〇〇㎡の骨材運搬を実施した。演習場定期整備の場合は、隊員の車両操縦技術及び施設機械操作技術の向上を図る絶好の機会であり、また、若年隊員の操縦・操作技術向上の場として、今後隊員が様々な場面で活躍できるよう育成に力を注いでいく所存である。



探検場での骨材の払い出し（積載）



機動路整備等のための骨材の運搬・卸下

第三三七高射中隊は、今年度米国で受関する中SAM部隊実射訓練検閲に向け、六月二十九日、古河駐屯地高射管理棟地域において第一回群指導を受けた。第一回群指導の目標を「総合評価七十%以上」とにかかげ猛暑の中、日々訓練に励んだ。その努力の甲斐あって、第一回群指導において「総合評価七十%以上」の成果を獲得することが出来た。中隊は、中SAM部隊日本一の成果獲得のため、更なる練度向上に励む。



出発準備



レーダー展開中

第三四一会計隊では、令和三年度後期の定期異動で、第三十三代会計隊長として中島1尉が上番した。三月十五日には東部方面会計隊長の山口1佐を立会官に迎えて着任式が行われた。着任式で中島1尉は「向上心」「組織力の発揮」を要望事項として掲げており、隊長以下十一名の少数部隊ではあるが一致団結し、駐屯地所在部隊の会計支援を組織力を発揮し行っていくと訓示を述べた。



隊長訓示



集合写真

基地通信中隊古河派遣隊では、令和四年三月十四日、長年派遣隊を支え続けた鈴木2曹が霞ヶ浦駐屯地へ異動し、同日付で木更津駐屯地から小林2曹が着任した。小林2曹は異動完了後から通信障害及び臨時通信工事に積極的に対応する等、即戦力として力を発揮した。



電話・搬送班長
鈴木 2 曹
（霞ヶ浦駐屯地へ）

ネットワーク運営班長
小林 2 曹
（木更津駐屯地）

